

株式会社 WOWOW プラス 番組審議会議事録 (2024 年 10 月 17 日開催分)

開催年月日 : 2024 年 10 月 17 日(木) 17:00~18:00

開催場所 : Café WASUGAZEN 愛宕グリーンヒルズ店

委員の出席 : 番組審議員 5 名  
書類審査 2 名  
インターローカルメディア 2 名  
WOWOW プラス 9 名

出席者

[審議員] 青木眞弥、池ノ辺直子、高寺成紀、富澤一誠、村上典吏子  
(以上 50 音順、敬称略)

[放送事業者] (インターローカルメディア株式会社)

久保政史、佐藤肇

(株式会社 WOWOW プラス)

宮澤辰之、森田健介、松田健吾、青木昭、高木慶、渋谷明子、  
山下泰司(記録撮影)、内藤友基(記録撮影)、高野佳彦(書記)

書類審査

[審議員] 音好宏、湯浅正敏 (50 音順、敬称略)

議題 : (1) 2024 年 7 月~9 月の「歌謡ポップスチャンネル」に対する視聴者からの問い合わせや指摘・意見について  
(2) 「歌謡ポップスチャンネル」の番組内容、編成内容に関する審議

報告事項 : 2024 年 7 月~9 月の「歌謡ポップスチャンネル」に対する視聴者からの問い合わせや指摘・意見について  
株式会社 WOWOW プラス メディア戦略局長より代表的な内容等の概要説明を行った。

審議事項 : [審議番組]

明治座 中村雅俊芸能生活 50 周年記念公演

『MASATOSHI NAKAMURA LIVE -look back with smile , look ahead with pride.-』

<審議番組概要>

1974 年にドラマ「われら青春!」の主演、挿入歌「ふれあい」で歌手デビューし、100 万枚を超えるヒットとなる。その後、ドラマ「俺たちの旅」「ゆうひが丘の総理大臣」などに出演しながら、歌手活動を続けヒット曲を出してきた。役者として、歌手として唯一無二の国民的スター中村雅俊が 50 周年の節目に開催した記念公演より、ライブステージの様をオリジナル番組でテレビ初放送。

・本番組の構成や編成の内容について

※記念公演自体は二部構成で、第一部が劇仕立て、第二部がライブステージの構成。  
権利許諾の関係で第一部の放送は叶わず、第二部のみの放送であること、登場するゲストは第一部からの流れで出演されていることなどの背景を予め補足説明。

審議内容： ■審議員意見

- 背景は伺ったが、やはり舞台の方も一緒に見たかった。6月の舞台を8月に放送するのは明治座に来られなかったファンの方、地方の方のためにタイムリーだと思うが、座長公演の全体を第一部も含めて見られないのは残念。中村さんはヒット曲もあるし話も上手いし楽しんで見られた。非常に良い番組だったと思う。欲を言えば「何年の歌か」「作詞作曲、特に中村さん自身が手掛けた歌か」などの情報を入れてくれれば時代感が出てよかったと思う。
- 劇場で公演を観劇した方は芝居も歌謡ショーも味わえて満足感があつたかも知れないが、番組単体としては歌押しで起伏がなかった。コロケ、小川菜摘というゲストも登場したが、その存在がメリハリになっていたかということ、それ程でもなかったので平板さが拭い切れなかった。ファン以外の方が引き込まれる要素が少ない構成で、懐かしい以上のものを感じにくかった。
- 世代的にリアルタイムなので、楽しんで見られた。公演としては、やはり第一部があつてより面白いものだったのでは、と感じる。そういう意味で物足りなさもあるが、懐かしい音楽がたくさん出てきてよかった。
- 同じくリアルタイム世代なので純粋に楽しめた。歌もトークも上手で頭の良さを感じる。ご自身で「300曲以上レコーディングしている」と話されていたが、それは新たな発見。ドラマの主題歌を歌っているイメージだったので意外だった。披露していた歌は皆有名な曲で、50年経っても変わらない歌い方、容姿、この変わらない良さが凝縮されて出ていて、それを見られてファンは満足だと思う。
- 「可もなく不可もなく」、これが中村雅俊さん。  
シンガーソングライターを目指した歌手としても、文学座出身俳優としてもどこか立ち位置が中途半端で、歌をやっている青春スターの扱い。自分が座る場所がない、という感じで居心地が悪かったと思う。ミリオン含め10万枚超のヒットが10作もあるにも関わらずそれが目立っていない。誰もが知っているが、これが代表、というものが無い。大好きだ、という人もいないが大嫌いな人もいない。今回のステージも50周年という特別感があるわけではない。だがそれこそが彼の素晴らしい処。それが何故か？に焦点を合わせてなぜ彼がこんなに魅力的なのか、実はこんなにすごい人物なのだ、という描き方を是非してほしい。
- 「俺たちの旅」や「ふれあい」「恋人たちも濡れる街角」など興味深く観られた。ただ奥さんの五十嵐淳子さんとのやり取りはなかった。以前取り上げた宇崎竜童夫妻のような新たな発見はあまり見受けられなかった。
- 中村雅俊のファンにはたまらないだろう。友人にも中村ファンがいるが、ファン歴半世紀といった息の長いファンが多いのが中村雅俊さんのファンの特徴なのだという。音楽センスの良さもさることながら、語りのうまさ、頭の回転の良さを改めて感じた。そのあたりをうまく料理した作りになっている番組と感じた。

-----  
連絡事項： 次回番組審議会は、2025年1月16日(木)午前11時(予定)より開催。

以上